

番号	88	地蔵尊像	
所在地	小城市小城町岩蔵二瀬川五角249-1 永泉寺集落センター横		
災害別	寛保年間（1741～1744）またはそれ以前 地すべり		
目的別	慰 霊	建立年	延享元年（1744）3月
特記事項	地蔵尊像（写真左）		



小城市小城町二瀬川永泉寺地区にある江戸時代の地すべり犠牲者を慰霊した地蔵尊像。地すべりの発生時期や被害等について、小城町史や佐賀県災異誌等の文献には掲載されていないが、小城郷土史研究会発行の「小城の歴史」（H6, 3, 31 第30号）に掲載された同会深川栄治氏の寄稿「永泉寺の地すべりと地蔵さん」に詳しく記されている。

深川氏によると、地すべりの惨事とその被害は藩政時には公表されず、記録はないが「現八天神社の西側、通称黒石から前後三回にわたり地すべりが起こり、急斜面を二瀬川と永泉寺西部落へ流れ落ち、民家十二軒ばかりを圧流し、死傷者十名以上だったと想像されます。」と記されている。延享元年（1744）三月に建立された地蔵尊像（写真左）は、その供養のため建立され、礼拝祈願されているとのことである。写真で分かるように花などが供えられ、今でも厚く祀られている。

地蔵尊像の台座の棹石の左面には、摩耗して読みづらいが、寛保四年（1744）子歳三月口日（寛保四年は二月に改元され延享元年となった）と記されており、地すべりの発生時期はおそらく寛保年間（1741～1744）かそれ以前ではないかと思われる。なお右面には、永泉寺村中と記されているが、正面の文字は摩耗して判読できない。

また、深川氏によると、地すべりの跡地には稻荷神社を祀り、西側には畑作が奨励され

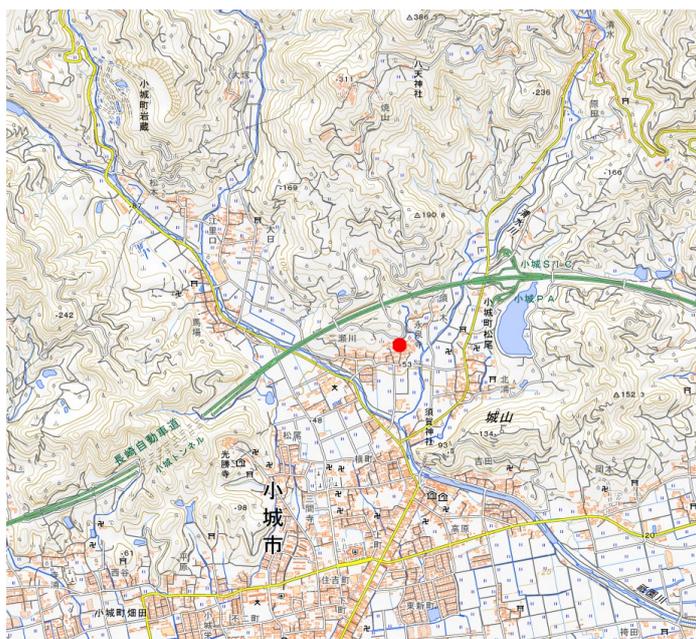
たとのことで、多くの参拝者が道を踏み固めると共に、地すべり、土砂くずれを早く予見するためだったと述べられている。



なお、今日、二瀬川付近には新しい住宅地が広がっており、地すべりの跡地はわからなくなっているが、地藏尊がある北側の山手を通る長崎自動車道の法面を見ると何段にもわたる切土と井桁擁壁、アンカー工などの地すべり対策が行われており、この付近が地すべり地帯であったことを物語っている。



長崎自動車道 小城 PA 付近



国土地理院電子国土 Web